

全国農政連推薦・農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも**百姓宣言**

「令和5年6月からの
豪雨災害について」

【早期営農再開と改良復旧に向けて】

令和5年6月からの豪雨災害により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。6月28日には農林水産大臣政務官として、和歌山県及び奈良県の被災地視察に伺いました。「有田みかん」で有名な和歌山県有田市は、24時間雨量が年間平均降雨量の約4分の1に当たる400ミリに達し、みかん畑の園地崩落など甚大な農業被害が発生しました。

また、7月には私の地元熊本県上益城郡をはじめ九州北部、その後、北陸・東北と、日本全土に甚大な大雨被害が及びました。被災による心理的・金銭的負担から、営農意欲の喪失と離農の加速が危惧され、いともたつてもいられず、地元熊本県益城町・山都町及び福岡県、大分県に視察入りし、JJA役職員・農家組合員の皆さまと意見交換を行いました。当口は、現状把握にあわせて、生産者の負担軽減に繋がる激甚指定による補助率引き上げの可能性などを議論いたしました。

野村農林水産大臣もこの度の豪雨被害を大変懸念され、①被害状況の迅速な把握②災害心急対策と早期の復旧に向けた対策の実施③対応可能な体制の整備④適時的確な情報提供、に省を挙げて取り組むよう、指示を出されました。

近年、日本各地で毎年のように異常

気象による大規模災害が発生しています。現状回復による復旧工事では、より激甚化し再発可能性の高い自然災害に対して、十分な備えとなり得ません。将来の地域の担い手に対して、安心・安全な営農環境を譲り渡すためには、防災・減災機能を強化した改良復旧が必要で

す。
現在、内閣府ではムーンショット目標8として、2050年までに「激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安心安全な社会を実現」するため、災害に繋がる気象現象自体の回避・軽減を可能とする制御技術の研究開発、そのために必要な国内外におけるルール形成等を検討しています。

長期的には、抜本的な自然災害の発生防止を期待しつつ、まずは目の前の課題に対し、持続可能な農業が可能となるよう、早期改良復旧に繋がる災害対策を検討して参ります。予断を許さぬ気象状況が続きますが、引き続き天候の急変にご留意の上お過ごしください。



▲参議院議員 馬場成志先生と
熊本県益城町・山都町の豪雨災害視察

全国・農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

どこへ向かうのか、日本の

コメ政策

これまで苦労してきた「生産調整」の取り組みは、一体どこへ消えたのか。生産者、JJA、そして政府、党が、声からして励んできていた事々はどこになったのか。需給ギャップは生じないのか。目標配分は行っているのか。未達成者にペナルティはあるのか。達成者への奨励措置はあるのか。今や、これらの議論はないのです。それほどまでに、米農家が、そしてJJA、市町村が苦しんできた議論は消えてしまったのです。要は、「これまでの取り組みを踏まえて自主的に考えてください」、「JJA、市町村、県域のこれまでの取り組みの実績や、今後のコメ戦略に基づき、それぞれの段階で、判断決定し、取り組んでほしい」という状態なのです。

永遠に続かかねない米の需給調整について、対策を講じなければならぬのは確実です。それに対して、国からの生産調整の割り当てということはなく、「自らの判断で対処して下さい」、「そのためにも米の生産調整の割り当てを止めたのですよ。これで米価が下がるというなら、皆さんで受け止めてもらうしかないのです

よ」ということになっているのです。すると、我々は、早急に全体の需給を言めて、政策論議を行わなければなりません。必要なことは何なのか。しっかりと考え抜いて、しっかりと取り組みましょう。

「米の代わりに何をやるか」、「どう農地を活用して所得を実現するか」徹底して考える。JJAや仲間の地域の奇合や、集落の皆さんとも相談する。そして「JJAを通じて出荷するから利益が出るよう対策を講じてほしい」と訴え、しっかりと成果を実現する。JJAには、頑張ってもらって有利な販売戦略と、利益が上がる販売価格を実現しましょう。そして日本の食と農を壊しかねない動きには、しっかりと対決しなければなりません。



▲後援会国政報告にて